

科目区分	副専攻科目						
科目名	オルガン学Iー構造						
担当教員	山野 政登司						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	オルガンの基礎知識						
授業の概要	楽器の演奏や音楽史を学ぶ機会はあるが、楽器その物、構造やその歴史についてを学ぶ講座は少ない。オルガンの構造、音響、音律、楽器の歴史を主に講義する。また、オルガンの使用や保守管理、必要な情報収集の手助けをする。						
到達目標	オルガンに関わる必要な基礎知識を把握する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット利用でのオルガン情報収集方法、ネット利用の注意点。 2. 調律や音律、音程論を解説。 3. プロジェクターを利用し、主要オルガンの画像や音響を視聴。 4. 資料プリントを参照し、オルガンの種類、歴史、構造を学習。 5. オルガンの使用や保守管理の注意事項。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	情報収集や学習に必要な、インターネットやパソコン利用の能力を高める。国内外、各地にあるオルガンを訪ね、種々のオルガンを演奏し、その特徴を学ぶ。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 90% 質疑応答 10%						
教科書	講師作成プリントを配布します。						
参考書	下記サイトの、オルガン関係文献を参照。 http://www.yamanorg.com/bibliog.htm						

科目区分	副専攻科目						
科目名	オルガン学II－歴史						
担当教員	長谷川 美保						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	オルガンの様式に見る音楽の価値観の時代変遷						
授業の概要	本授業は、「音楽実技」を履修する学生が、自分の演奏する楽器の成り立ちと発展を知り、よりオルガンの演奏法を理解し体得するための重要なプロセスとなります。また「音楽実技」を履修していない者でも、オルガンという一つの楽器が生まれた背景から社会情勢を背景にした発展の過程をつぶさに知ることで、ヨーロッパ全体の社会史およびヨーロッパ人の表現方法の源泉に触れ、より広い世界を理解することにつながります。						
到達目標	オルガンという楽器が時代により、あるいは国によって発達・変化を遂げてきた内容を知り、オルガン音楽全体を理解できるようになります。また、そこから発展して、音楽に対する価値観が時代により変遷してきたこと、さらに、文化芸術への政治社会の関わり方を学び、一国民・一市民として、文化芸術にどのような関わり方をすべきか、自分の意見を明快に持てるようになります。						
授業計画	第1日・教室にてオルガン製作の過程をまとめたDVDを鑑賞。ヨーロッパ各地に残る歴史的オルガンの映像・写真等を見ながらオルガン建造の歴史を追う。また、各国のオルガンの違いについても講義する。 第2日・チャペルにてオルガン内部を詳細に見、歴史の中でのオルガン各部の発展を確認する。実際のオルガン演奏（講師または履修者による）をはさみ、オルガン音楽の歴史を実際に経験。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：講義日までに、①オルガンの発生は歴史上いつごろか ②「パイプオルガン」「電子オルガン」「リードオルガン」の構造上の違い、以上①②を事前学習しておいてください。 授業後学習：課題に沿ってレポートを作成してください。						
授業方法	主に講義						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	プリントを渡します。						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	音楽実技III						
担当教員	伊藤 純子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガン演奏の研究						
授業の概要	音楽実技Ⅰ、Ⅱで培った基礎の上に、さらに高度な演奏技術と表現を習得するために、多角的なアプローチにより、演奏技術の向上を図ります。具体的には、履修者各自との話し合いにより決定される課題曲の演奏を通して、より深い研究を促します。楽器とのコミュニケーションの取り方、楽曲への取り組み方、表現の仕方、演奏者と聴衆とではどのように聞こえ方が異なってくるか、などについて、課題曲の演奏を用いて、随時ひとつずつ取り上げ、整理していきます。						
到達目標	オルガンという楽器は、慣れれば慣れるほど奥深い発見があり、一方で、慣れによって知らないうちに付いてしまった癖は、思うような演奏が出来なくさせてしまいます。楽器との付き合い方や、楽曲への向き合い方の点で、独学では気付けない面を、グループレッスンで分かち合うことにより、新しい発見と学びを導き出します。修了後に独学でオルガンを学び続ける上での、ヒントを修得します。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・わかちあい 2. グループレッスン 3. グループレッスン 4. グループレッスン 5. グループレッスン 6. グループレッスン 7. グループレッスン 8. グループレッスン 9. グループレッスン 10. 公開発表会準備 11. 公開発表会準備 12. 公開発表会準備 13. 公開発表会準備 14. 公開発表会 15. 発表会の講評・わかちあい 16. 後期の方針について・わかちあい 17. グループレッスン 18. グループレッスン 19. グループレッスン 20. グループレッスン 21. グループレッスン 22. グループレッスン 23. グループレッスン 24. 公開発表会準備 25. 公開発表会準備 26. 公開発表会準備 27. 公開発表会準備 28. 公開発表会準備 29. 公開発表会（試験を兼ねる） 30. 公開発表会の講評・わかちあい 						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自が学内外の楽器で練習、準備をする						
授業方法	実技指導						
評価基準と評価方法	平常点60%、試験40%						
教科書	とくになし						

参考書	とくになし
-----	-------

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習I						
担当教員	梅村 憲子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の画曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>前期 第1回 ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方①</p> <p>第2回 ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方②</p> <p>第3回 ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸①</p> <p>第4回 ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸②</p> <p>第5回 ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③</p> <p>第6回 ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心①</p> <p>第7回 ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心②</p> <p>第8回 ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋①</p> <p>第9回 ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋②</p> <p>第10回 ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③</p> <p>第11回 ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3～4声） その1</p>						

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・発声の基礎 背中面① <p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その2 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2 ・発声の基礎 背中面② <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その3 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3 ・発声の基礎 体を開く① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その4 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4 ・発声の基礎 体を開く② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その5 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5 ・発声の基礎 体を開く③ <p>後期</p> <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その1 ・ポリフォニーの合唱曲 その1 ・発声の発展 筋肉の連携① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その2 ・ポリフォニーの合唱曲 その2 ・発声の発展 筋肉の連携② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その3 ・ポリフォニーの合唱曲 その3 ・発声の発展 筋肉の連携③ <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その4 ・ポリフォニーの合唱曲 その4 ・発声の発展 横隔膜① <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その5 ・ポリフォニーの合唱曲 その5 ・発声の発展 横隔膜② <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その1 ・降臨節の合唱曲 その1 ・発声の発展 横隔膜③ <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その2 ・降臨節の合唱曲 その2 ・発声の発展 顔面の響き① <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その3 ・降臨節の合唱曲 その3 ・発声の発展 顔面の響き② <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その4 ・待降節の合唱曲 その4 ・発声の発展 顔面の響き③ <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その5 ・降臨節の合唱曲 その5 ・発声の発展 体を響かせる① <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その1 ・発声の発展 体を響かせる② <p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その2 ・発声の発展 体を響かせる③ <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Vater unser im Himmelreich)
------	---

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の合唱曲 その3 ・発声の発展 声を離す① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その4 ・発声の発展 声を離す② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その5 ・発声の発展 声を離す③
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。 ・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます ・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習IA						
担当教員	梅村 憲子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の楽曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声~4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸① <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸② <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③ <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心① <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心② <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋① <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋② <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③ <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3~4声） その1 ・発声の基礎 背中面① 						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その2 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2 ・発声の基礎 背中面② <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その3 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3 ・発声の基礎 体を開く① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その4 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4 ・発声の基礎 体を開く② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その5 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5 ・発声の基礎 体を開く③
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。 ・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます ・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習IB						
担当教員	梅村 憲子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、さまざまな宗教的内容の楽曲を美しく表現力裕に歌えるように練習を重ねます。また歌うための身体と息の使い方に注目し、1年間の学習で「体が変わった」という実感が持てることも目指します。						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声~4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの声を聞きつつ、楽しんで声楽アンサンブルの演奏ができること ・ドイツ語、ラテン語などの正しい発音での歌唱 ・良い声は身体とつながっていることの実感を持つこと ・歌詞の意味を的確に表現し演奏すること 						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その1 ・ポリフォニーの合唱曲 その1 ・発声の発展 筋肉の連携① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その2 ・ポリフォニーの合唱曲 その2 ・発声の発展 筋肉の連携② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その3 ・ポリフォニーの合唱曲 その3 ・発声の発展 筋肉の連携③ <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その4 ・ポリフォニーの合唱曲 その4 ・発声の発展 横隔膜① <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その5 ・ポリフォニーの合唱曲 その5 ・発声の発展 横隔膜② <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その1 ・降臨節の合唱曲 その1 ・発声の発展 横隔膜③ <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その2 ・降臨節の合唱曲 その2 ・発声の発展 顔面の響き① <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その3 ・降臨節の合唱曲 その3 ・発声の発展 顔面の響き② <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その4 ・待降節の合唱曲 その4 ・発声の発展 顔面の響き③ <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その5 ・降臨節の合唱曲 その5 ・発声の発展 体を響かせる① <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その1 ・発声の発展 体を響かせる② 						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その2 ・発声の発展 体を響かせる③ <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その3 ・発声の発展 声を離す① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その4 ・発声の発展 声を離す② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その5 ・発声の発展 声を離す③
授業外における学習 (準備学習の内容)	外国語の曲の場合は、正しい発音、言葉の意味を反芻すること 与えられた楽曲の反復練習
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。 ・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます ・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし
教科書	その都度楽譜を配布する
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	現代日本語概論A						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	標準語・共通語と方言						
授業の概要	日本語の標準語・共通語と方言を対比させることで、それらの多様性について理解を深める。専攻分野や目指す職種の如何にかかわらず、日本語の表現力は生きていく上で不可欠なものとなるからである。ビデオやインターネットから入手できる資料を取り入れながら講義をすすめる。演習課題も、できるだけ多く取り入れる予定である。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の多様性についての理解を深める。 2. 日本語の標準語・方言と方言に関する基本的な知識を身につける。 3. 言語のバラエティについて、その基本的な分析方法を知る。 						
授業計画	第1回 日本語の多様性 第2回 方言とは何か 第3回 方言の歴史 第4回 方言と標準語・共通語の関係 第5回 方言と標準語・共通語の使い分け 第6回 現代人の考える方言と標準語・共通語 第7回 日本言語地図から① 第8回 日本言語地図から② 第9回 方言文法言語地図から① 第10回 方言文法言語地図から② 第11回 国語史からみた方言 第12回 話しことばに残る古語 第13回 方言と標準語・共通語の地理的・歴史的関係 第14回 方言と標準語・共通語の接触にかかわる諸問題 第15回 総論						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、教科書を事前に読んだり、インターネット上から資料を入手しておくこと。 授業後学習：授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席（小レポートを含む）40%、期末レポート60%						
教科書	真田信治『方言の日本地図 ことばの旅』講談社+α新書 ISBN 4-06-272168-6C0281						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	副専攻科目						
科目名	現代日本語概論B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	適切な日本語運用能力を身につける						
授業の概要	敬語に関して、その具体的なしくみと適切な運用方法についての理解を深める。専攻分野や目指す職種の如何にかかわらず、日本語の表現力は生きていく上で不可欠なものとなるからである。ビデオやインターネットから入手できる資料を取り入れながら講義をすすめる。演習課題も、できるだけ多く取り入れる予定である。						
到達目標	1. 日本語の敬語に関する基本的な知識を身につける。 2. 日本語の敬語についてのしくみとその運用方法についての理解を深める。						
授業計画	第1回 日本語の敬語の概観 第2回 敬語の種類とはたらき① 第3回 敬語の種類とはたらき② 第4回 敬語の種類とはたらき③ 第5回 敬語の種類とはたらき④ 第6回 敬語の特別な形① 第7回 敬語の特別な形② 第8回 間違いやすい敬語① 第9回 間違いやすい敬語② 第10回 「敬語の指針」を読む① 第11回 「敬語の指針」を読む② 第12回 「敬語の指針」を読む③ 第13回 「敬語の指針」を読む④ 第14回 「敬語の指針」を読む⑤ 第15回 総論						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、教科書を事前に読んだり、インターネット上から資料を入手しておくこと。 授業後学習：授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	第1回から第9回と第15回は講義形式、第10回から第14回は演習形式。						
評価基準と評価方法	出席（小レポートを含む）40%、期末レポート60%						
教科書	授業が始まってから指示する。						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法A						
担当教員	河野 美抄子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として非日本語母語話者に教えるということはどういうことか。日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識を全体的に概観する。教育現場ではどのような指導がなされているのかわかり、外国語として日本語を捉えることの面白さと重要性を考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されている。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。 また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説 1 第3回：日本語教育概説 2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法 1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法 2 TPR 第8回：外国語教授法 3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法 4 トイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法 5 OPI 第11回：外国語教授法 6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：交流授業 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストや資料で前回の復習をしておくが良い。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 欠席については減点することがある。						
教科書	改定新版 日本語教師養成シリーズ5「日本語教授法」「日本語教育法・実技（実習）」東京法令出版 監修 佐治圭三 真田信治						
参考書	『みんなの日本語Ⅰ』『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法B						
担当教員	河野 美抄子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実践的な知識を身に付ける。						
授業の概要	日本語を外国語として非日本語母語話者に教えるということはどういうことか。日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識を全体的に概観する。主に教材を通し、レベルや技能別の具体的な指導法について学ぶ。また、国語教育とは異なる中級者、上級者への指導と日本語教育のあり方を考えていく。						
到達目標	教科書や教材のあり方、使い方を学び、学習者に合った指導とはどのようなことかを具体的に理解する。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究 1 第3回：教科書研究 2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストや資料で前回の復習をしておくが良い。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% なお、欠席は減点することがある。						
教科書	改定新版 日本語教師養成シリーズ5「日本語教授法」「日本語教育法・実技（実習）」東京法令出版 監修 佐治圭三 真田信治						
参考書	『みんなの日本語Ⅰ』『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法C						
担当教員	藤井 千枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>日本語教育現場に必要な日本語文法の基礎知識を学びます。「日本語教育能力検定試験」の合格に近づけるよう、演習問題も適宜取り入れます。</p> <p>外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものです。この授業の受講経験を振り返って、「自分自身の言語や文化への知識を増やすことで、自分の立ち位置を、より確かに自覚できた」と思ってもらえるとうれしいです。</p>						
授業の概要	<p>授業では「日本語教育文法講義ノート」を使います。本書の見開きには「自ら考え、書き込むことで、文法の基礎知識を確実に定着させることを目的としたテキストです」と書かれています。書き込み式のテキストを使い、例文を発表しあいながら、授業を進めます。10課・22課終了後と学期の最後に小テストを実施する予定です。</p> <p>演習問題、日本語教材のサンプル、日本語を学習する外国語話者が書いた文例などを配布します。</p> <p>※学生のみなさんが、日本語教授法A・Bをすでに受講していることを想定していますが、それが難しい場合は相談してください。</p> <p>※この授業を受講後または並行して、「実習」の授業を履修されることを、つよくお勧めします。</p>						
到達目標	日本語の初級の内容を中心に、日本語文法の基礎知識を身につけることを目標にします。						
授業計画	<p>第1回 ①名詞文 ②形容詞文 第2回 ③動詞の分類 ④辞書形 ⑤ます形 第3回 ⑥て形 ⑦た形 第4回 ⑧可能・受身・使役形 第5回 ⑨条件 ⑩自他動詞 第6回 ☆復習(①~⑩・視点) ⑪テンス ⑫アスペクト 第7回 ☆小テスト(①~⑩) ⑬モダリティ ⑭終助詞 第8回 ⑮副詞 ⑯接続詞 第9回 ⑰待遇表現 ⑱敬語 第10回 ⑲初級の指導 ⑳中上級の指導 第11回 授受表現 あいづち 第12回 ☆復習(⑪~) 許可・義務・勧誘 第13回 ☆小テスト(⑪~) 命令・依頼・誘い 第14回 原因・理由・断り・謝罪 意見・ほめ 第15回 まとめ</p> <p>小テストの日程が変更の場合は、授業内で連絡します。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	検定試験の受験を考えている場合は、テキストの内容すべてが重要項目です。しっかり勉強してください。実習に参加する予定がある場合は、「いい例文」が作れるようにトレーニングしてみましょう。						
授業方法	「授業の内容」を参照してください。						
評価基準と評価方法	授業参加・提出物(例文など授業内に書いて提出)・口頭発表: 60% 小テスト2回(または3回): 40%						
教科書	「書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート」(アルク) 山下暁美・沢野美由紀						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法D						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>日本語教授法C（前期開講）に引き続き、日本語教育現場に必要な「音声学」「対照言語学」の基礎知識を学びます。聴解問題の演習も実施しますが、その中で、各技能別（聞く・話す・読む・書く）の教授法についても触れる予定です。</p> <p>「音声学」「対照言語学」は、前期の「文法」以上に、日本語の枠をこえた内容になります。世界にたくさんある言語、その中の一つとしての日本語の姿を理解できればと思います。</p>						
授業の概要	<p>テキストは指定せず、適宜資料を配布します。小テストを適宜実施する予定です。また、適宜質問をしますので、コメントや例を記入して授業内に提出してください。</p> <p>※学生のみなさんが、日本語教授法A～Cをすでに受講していることを想定していますが、難しい場合は相談してください。</p> <p>※この授業を受講後または並行して、「実習」の授業を履修されることを、つよくお勧めします。</p>						
到達目標	日本語の音声と対照言語学の基礎知識を身につけることと、日本語教育能力試験の聴解問題に慣れることを目標にします。						
授業計画	<p>第1回 日本語の音声1（アクセントなど） 第2回 日本語の音声2（アクセントなど） 第3回 日本語の音声3（調音法） 第4回 日本語の音声4（調音点） 第5回 日本語の音声5（発音表記） 第6回 日本語の音声6（学習者の母語との関係） 第7回 復習・演習 第8回 小テスト 第9回 対照言語学1（言語類型論） 第10回 対照言語学2（英・中・韓国語との比較） 第11回 対照言語学3（英・中・韓国語との比較） 第12回 対照言語学4（誤用分析）・復習 第13回 小テスト 第14回 聴解演習 第15回 聴解演習</p> <p>小テストの日程を変更する場合は、授業内でお知らせします。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内で聴解の参考書をいくつか紹介します。必要に応じて練習してください。						
授業方法	「授業の概要」を参照してください。						
評価基準と評価方法	授業参加・提出物（例文など授業内に書いて提出）・口頭発表：60% 小テスト2回：40%						
教科書	使用しません。						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの国民性とフランス人気質を学ぶ。						
授業の概要	在仏経験20年以上のアメリカ人ジャーナリストがフランス人について書いた文章を読む。						
到達目標	フランスの国民性とフランス人気質の理解						
授業計画	第1回 親切と不親切 第2回 フランス人の連帯感 第3回 デパートや大型スーパーでの体験 第4回 不親切な店員たち 第5回 自分の非を認めないフランス人 第6回 フランスでミスを認めること 第7回 フランスの役所 第8回 フランス人と教養 第9回 フランスの必須科目 第10回 フランスの家族 第11回 世界一厳しい躰け 第12回 学校生活 第13回 グランド・ゼコール 第14回 フランス語に対するこだわり 第15回 人生の楽しみ。筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修前に参考書全体を読んでおくことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	プリントを配付。						
参考書	『フランス人 この奇妙な人たち』ポリール・プラット、TBSブリタニカ、ISBN4-484-98110-6 C0098						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化B						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの政治・歴史・文化						
授業の概要	フランスの社会と国民性を、政治・歴史・文化の側面から知る。						
到達目標	フランスの政治・歴史・文化の理解						
授業計画	第1回 フランスの概要 第2回 歴史：近代（1） 第3回 近代（2） 第4回 近代（3） 第5回 歴史：現代（1） 第6回 現代（2） 第7回 フランスの政治（1） 第8回 フランスの政治（2） 第9回 フランスの政治（3） 第10回 フランスと世界（1） 第11回 フランスと世界（2） 第12回 社会問題（1）：移民 第13回 社会問題（2）：婚姻制度と家族 第14回 文学と映画 第15回 後期のまとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修前に教科書全体を読んでおくことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	「最新フランス・ハンドブック」、フランス外務・欧州問題省編、原書房、ISBN978-4-562-04652-2 0098						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットのフランス語						
授業の概要	フランス語のインターネット・サイトを読んだり、フランス語でメールのやり取りをする。						
到達目標	パソコン通信に必要とされるフランス語能力の養成						
授業計画	第1回 Découverte d'un ordinateur 第2回 Internet 第3回 Courrier électronique 第4回 Correspondance 第5回 Célébrités 第6回 Géographie de France 第7回 Voyage en Italie 第8回 Visite à Paris 第9回 Transports parisiens 第10回 Hôtels 第11回 Météo 第12回 Restaurants 第13回 Cinéma 第14回 Média 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の予習を怠らないこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	「ミッション・インターネット」小松裕子、駿河台出版社、ISBN 978-4-411-01106-0 C1085						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットのフランス語						
授業の概要	フランス語のインターネット・サイトを読んだり、フランス語でメールのやり取りをする。						
到達目標	パソコン通信に必要とされるフランス語能力の養成						
授業計画	第1回 Découverte d'un ordinateur 第2回 Internet 第3回 Courrier électronique 第4回 Correspondance 第5回 Célébrités 第6回 Géographie de France 第7回 Voyage en Italie 第8回 Visite à Paris 第9回 Transports parisiens 第10回 Hôtels 第11回 Météo 第12回 Restaurants 第13回 Cinéma 第14回 Média 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の予習を怠らないこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	「ミッション・インターネット」小松裕子、駿河台出版社、ISBN 9 7 8 - 4 - 4 1 1 - 0 1 1 0 6 - 0 0 8 5						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習B						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス語作文						
授業の概要	構文の理解を中心として、いろんなフランス語の文を作る練習をする。 並行して、フランス語の長文の読解の練習もする。						
到達目標	フランス語の構文の理解を深め、フランス語で書く力を養う。						
授業計画	<p>第1回：授業のガイダンス。教科書0課「文と節」の説明。</p> <p>第2回：第1課「属詞」、第2課「目的補語」についての説明と練習。</p> <p>第3回：第1課、第2課の作文問題。第3課「状況補語」の説明。</p> <p>第4回：第3課の作文問題。第4課「非人称主語と実質主語」、第5課「半助動詞」の説明。</p> <p>第5回：第4課、第5課の作文問題。第6課「補足節」の説明。</p> <p>第6回：第6課の作文問題。第7課「間接疑問説」、第8課「関係代名詞節」の説明。</p> <p>第7回：第7課、第8課の作文問題。第9課「副詞節（その1）」の説明。</p> <p>第8回：第9課の作文問題。第10課「副詞節（その2）」、第11課「副詞節（その3）」の説明。</p> <p>第9回：第10課、第11課の作文問題。第12課「副詞節（その4）」の説明。</p> <p>第10回：第12課の作文問題。「時事フランス語2011年度版」の第17課 Burn-out</p> <p>第11回：「時事フランス語2011年度版」第17課の続きと EXERCICE</p> <p>第12回：「時事フランス語2011年度版」第18課 La vampire-mania</p> <p>第13回：「時事フランス語2011年度版」第18課の続きと EXERCICE</p> <p>第14回：「時事フランス語2011年度版」第19課 Les sectes</p> <p>第15回：試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む問題集の箇所をすべてあらかじめ解いておくこと。</p> <p>授業後学習：前回誤答であったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習の量30%。仏検合格者は5点程度加点する。						
教科書	「書くフランス語—考え方と練習—」瀧川好庸、飯田雅章、大柳貴、寺家村博著、白水社						
参考書	「時事フランス語 2011年度版」ミッシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習B						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス語作文						
授業の概要	構文の理解を中心として、いろんなフランス語の文を作る練習をする。 並行して、フランス語の長文の読解の練習もする。						
到達目標	フランス語の構文の理解を深め、フランス語で書く力を養う。						
授業計画	<p>第1回：授業のガイダンス。教科書0課「文と節」の説明。</p> <p>第2回：第1課「属詞」、第2課「目的補語」についての説明と練習。</p> <p>第3回：第1課、第2課の作文問題。第3課「状況補語」の説明。</p> <p>第4回：第3課の作文問題。第4課「非人称主語と実質主語」、第5課「半助動詞」の説明。</p> <p>第5回：第4課、第5課の作文問題。第6課「補足節」の説明。</p> <p>第6回：第6課の作文問題。第7課「間接疑問説」、第8課「関係代名詞節」の説明。</p> <p>第7回：第7課、第8課の作文問題。第9課「副詞節（その1）」の説明。</p> <p>第8回：第9課の作文問題。第10課「副詞節（その2）」、第11課「副詞節（その3）」の説明。</p> <p>第9回：第10課、第11課の作文問題。第12課「副詞節（その4）」の説明。</p> <p>第10回：第12課の作文問題。「時事フランス語2011年度版」の第17課 Burn-out</p> <p>第11回：「時事フランス語2011年度版」第17課の続きと EXERCICE</p> <p>第12回：「時事フランス語2011年度版」第18課 La vampire-mania</p> <p>第13回：「時事フランス語2011年度版」第18課の続きと EXERCICE</p> <p>第14回：「時事フランス語2011年度版」第19課 Les sectes</p> <p>第15回：試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む問題集の箇所をすべてあらかじめ解いておくこと。</p> <p>授業後学習：前回誤答であったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習の量30%。仏検合格者は5点程度加点する。						
教科書	「書くフランス語—考え方と練習—」瀧川好庸、飯田雅章、大柳貴、寺家村博著、白水社						
参考書	「時事フランス語 2011年度版」ミッシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社						

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIA						
担当教員	木谷 吉克						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	書き言葉のフランス語の読解						
授業の概要	語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。 同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。 また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習も行う。						
到達目標	書きことばに慣れること。フランス語の語彙力を増すこと。長文読解力を高めること。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。ヒアリング教材を使っての聞き取り練習。</p> <p>第2回：1課「大統領選挙」</p> <p>第3回：1課の続きとEXERCICE</p> <p>第4回：2課「ダニー・ル・ルージュ」</p> <p>第5回：2課の続きとEXERCICE</p> <p>第6回：3課「グランゼコル」</p> <p>第7回：3課の続きとEXERCICE</p> <p>第8回：4課「ベクレル」</p> <p>第9回：4課の続きとEXERCICE</p> <p>第10回：5課「おんな経営者」</p> <p>第11回：5課の続きとEXERCICE</p> <p>第12回：6課「世界最大の化粧品会社」</p> <p>第13回：6課の続きとEXERCICE</p> <p>第14回：7課「パリ・ディズニーランドへどうぞ」</p> <p>第15回：試験</p> <p>授業の最初に出席カードを配る。それにどこまで予習しているかを書いてもらう。教科書は読んで訳すだけでなく、文法的な説明も問う。したがって、それについてもあらかじめ調べておくこと。毎回最後の20分程度を使って、ヒアリングの練習もする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む所を辞書を調べて訳しておくこと。</p> <p>授業後学習：前回誤ったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には5点程度加点する。						
教科書	「時事フランス語 2012年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチャー・フランセーズIB						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	書き言葉のフランス語の読解						
授業の概要	語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。 同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。 また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習も行う。						
到達目標	書きことばに慣れること。フランス語の語彙力を増すこと。長文読解力を高めること。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。ヒアリング教材を使っての聞き取り練習。</p> <p>第2回：8課「パリのチャイナタウン」</p> <p>第3回：8課の続きとEXERCICE</p> <p>第4回：9課「白夜」</p> <p>第5回：9課の続きとEXERCICE</p> <p>第6回：10課「外人部隊」</p> <p>第7回：10課の続きとEXERCICE</p> <p>第8回：11課「愛は牧場に」</p> <p>第9回：11課の続きとEXERCICE</p> <p>第10回：12課「ウーマンパワー」</p> <p>第11回：12課の続きとEXERCICE</p> <p>第12回：13課「カトリックとプロテスタント」</p> <p>第13回：13課の続きとEXERCICE</p> <p>第14回：14課「パン・ケーキ屋さんの守護聖人」</p> <p>第15回：試験</p> <p>授業の最初に出席カードを配る。それにどこまで予習しているかを書いてもらう。教科書は読んで訳すだけでなく、文法的な説明も問う。したがって、それについてもあらかじめ調べておくこと。毎回最後の20分程度を使って、ヒアリングの練習もする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む所を辞書を調べて訳しておくこと。</p> <p>授業後学習：前回誤ったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には5点程度加点する。						
教科書	「時事フランス語 2012年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチャー・フランセーズIIA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読む。						
到達目標	フランス語の読解能力の養成。						
授業計画	第1回 第1課 Le Mariage au Jaapon (1) 第2回 第1課 Le Mariage au Jaapon (2) 第3回 第2課 Le Mariage en France (1) 第4回 第2課 Le Mariage en France (2) 第5回 第3課 Les Loisirs au Japon (1) 第6回 第3課 Les Loisirs au Japon (2) 第7回 第4課 Les Loisirs en France (1) 第8回 第4課 Les Loisirs en France (2) 第9回 第5課 Les Etudes au Japon (1) 第10回 第5課 Les Etudes au Japon (2) 第11回 第6課 Les Etudes en France (1) 第12回 第6課 Les Etudes en France (2) 第13回 第7課 Tokyo, une ville jeune (1) 第14回 第7課 Tokyo, une ville jeune (2) 第15回 前期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回の予習を怠らないこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチャー・フランセーズIIB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読む。						
到達目標	フランス語の読解能力の養成						
授業計画	第1回 第8課 Paris, une ville jeune (1) 第2回 第8課 Paris, une ville jeune (2) 第3回 第9課 Mon quartier (1) 第4回 第9課 Mon quartier (2) 第5回 第10課 Ma ligne, la ligne Toyoko (1) 第6回 第10課 Ma ligne, la ligne Toyoko (2) 第7回 第11課 Les cafés de mon quartier (1) 第8回 第11課 Les cafés de mon quartier (2) 第9回 第12課 Le tachiyomi (1) 第10回 第12課 Le tachiyomi (2) 第11回 第13課 La Mode japonaise (1) 第12回 第13課 La Mode japonaise (2) 第13回 第14課 La télévision japonaise (1) 第14回 第14課 La télévision japonaise (2) 第15回 後期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回の予習を怠らないこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--